

化学療法計画書

ID					
氏名					
生年月日					
実施部署			発行日		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m ²)	1.50

指示医師:		
指導医師:		
投与開始予定日:	年	月 日
投与終了日:	年	月 日

病名	胃癌
治療法	アブラキサン単独療法 (weekly)

抗癌剤・商品名	1 アブラキサン
規格	100mg
一般名	アルブミン懸濁型パクリタキセル
一日投与量 (規定)	100mg/m ²
患者情報から算出した一日投与量	150.11 mg
実際の投与量	150 mg
	99.9 mg/m ²
投与日	day1,8,15
1クール期間	4週間
予定クール数	
検査スケジュール	原則的に投与日に化学療法施行前セット検査データに応じて臨時に検査実施

適応基準	胃癌
推奨経口剤	○このレジメンは軽度催吐性リスク群です。推奨される経口制吐剤はありません。
禁忌	1. 重篤な骨髄抑制のある患者 2. 感染症を合併している患者 3. 本剤又はパクリタキセル、アルブミンに対し過敏症の既往歴のある患者 4. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
中止基準	投与前の好中球数: 1000/mm ³ 未満、血小板数: 75,000/mm ³ 未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (国内第Ⅲ相試験投与延期基準に準拠)
副作用	重大 1.骨髄抑制 (好中球減少55.9%、白血球減少46.2%、Hb減少39.7%、血小板減少27.6%) 2.感染症、敗血症 (0.8%) 3.末梢神経障害 (57.4%)、麻痺 (0.1%) 4.脳神経麻痺 (0.2%) 5.ショック、アナフィラキシーショック (0.2%) 6.間質性肺炎 (0.8%)、肺線維症 7.急性呼吸窮迫症候群 (0.1%) 8.心筋梗塞、心伝導障害 (以上0.1%)、うっ血性心不全 (0.2%) 9.脳卒中 (0.2%)、肺塞栓 (0.2%)、肺水腫 (0.2%)、血栓性静脈炎 (0.1%) 10.難聴 (0.1%)、耳鳴 (0.2%) 11.消化管壊死、消化管穿孔、消化管出血 (0.5%)、消化管潰瘍 (0.1%) 12.重篤な腸炎 (0.2%) 13.腸管閉塞 (0.2%)、腸管麻痺 14.肝機能障害 (2.0%)、黄疸 (0.1%) 15.膵炎 (0.1%) 16.急性腎不全 (0.4%) 17.皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症 (Lyell症候群) 18.播種性血管内凝固症候群 (DIC) その他 20%以上: 脱毛、感覚異常、無力症、 5~20%: 発疹、倦怠感、悪心、下痢、嘔吐、便秘、口内炎、関節痛、筋肉痛、食欲不振 5%未満: そう痒症、爪異常、光線過敏症、発熱、浮腫、顔面腫脹、蕁麻疹、神経系障害、四肢痛、骨痛、疼痛、胸痛、注射部位反応、腹痛、消化不良、腹部膨満、舌痛、口内乾燥、嚥下障害、口唇炎、背部痛、胸壁痛、筋力低下、筋痙攣、脱水、呼吸困難、咽喉頭痛、咳嗽、胸水、鼻炎、鼻出血、喀血、発声障害、しゃっくり、眼異常、不眠症、不安、血管異常、尿失禁、頻脈、不整脈、耳痛、乳房痛
備考	

アブラキサン単独療法 観察記録

所要時間: 1時間30分

氏名: ID() 年齢: (才)

施行日	クール	回目	施行前内服薬()	入外()					
医師	指示医師: アブラキサン (mg) 一般名(アルブミン懸濁型/パクリタキセル)		抗癌剤用量 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由	抗がん剤以外の薬剤の変更・追加					
				<table border="1"> <tr> <th>投与開始時間</th> <th>調剤</th> <th>実施</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	投与開始時間	調剤	実施		
投与開始時間	調剤	実施							
投与指示	本体	側管							
	生食250mL		1時間30分かけて点滴 【167mL/hr】						
	生食100mL +デカドロン 2 A		30分かけて点滴 【200mL/hr】						
	生食100mL+アブラキサン 総液量 mL		30分かけて点滴 【 mL/h】						
本体終了後抜去									